



TITLE:

消費ニ關スル學說ノ發達(一)

AUTHOR(S):

瀧本, 誠一

---

CITATION:

瀧本, 誠一. 消費ニ關スル學說ノ發達(一). 經濟論叢 1917, 4(1): 47-56

ISSUE DATE:

1917-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127147>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 經濟論叢

號一第 卷四第

行發日一月一年六正大

## 論 說

官業問題ニ就キテ(一).....

法學博士

神戸正雄

體質廢頽問題(二).....

法學博士

財部靜治

戰時ノ我輸出品ノ粗製濫造(二完).....

法學博士

戸田海市

消費ニ關スル學說ノ發達(一).....

.....

瀧本誠一

經濟心理學ノ組織的研究(一).....

.....

米田庄太郎

米券倉庫ヲ論ス(二完).....

法學士

河田嗣郎

## 雜 錄

賤民名稱考.....

文學博士

新村出

女ニ子ヲ生マス政策.....

.....

米田庄太郎

原始亂婚ニ就イテ.....

文學士

高田保馬

寶曆ノ豫算.....

法學士

本庄榮治郎

歐洲ニ於ケル工場監督機關ニ就テ(二完).....

.....

山本美越乃

經濟雜話(七).....

法學博士

田島錦治

戰後ニ對スル二大準備.....

法學士

河田嗣郎

新著紹介及ビ寄贈書目

## 消費ニ關スル學說ノ發達(二)

瀧 本 誠 一

近世ノ經濟學ニ於テ消費(Consumption)ニ關スル研究ガ重要ノ地位ヲ占ムルニ至ツタコトハ何人モ疑ハザル所デアル、然レドモ今日尙原論若クハ政策論ニ於テ消費ノ學說ガ當然受クベキダケノ注意ヲ受ケ取ツテ居ラス事實アルハ斯學ノ爲メニ遺憾ノ極デアル、我輩カ今茲ニ此ノ論題ヲ掲ケテ其ノ學說上ニ於ケル發達ノ大略ヲ述ベントスルハ、此ノ點ニ向ツテ更ニ一層學者ノ注意ヲ乞ハント欲スルガ爲メデアル。

サテ消費ニ關スル學說ハ試ミニ之ヲ分類シテ見レバ(第一)倫理學上ヨリ看察シタルモノ(第二)事業振興ノ點ヨリ論述シタルモノ(第三)價值論ニ關シ功用(Utility)ト聯結シテ研究セラレタルモノナドニ分類スルコトヲ得ベキナレトモ、其實斯ル分類ハ淺薄ナル外觀ニ付キテノミ認メラルルコトデアツテ、結局嚴密ナル學問上ノ分類法ニ合ツテ居ラヌ様ニ考ヘラルルノデアル、例ヘハ倫理上ヨリ見たル消費論デアツテモ有益ノ消費デアルヤ否ノ問題ニ入レバ結局功用ノ說ヲ提出スルコトナルベク、又專ラ事業振興ノ點ヨリ消費ヲ論シタルモノデアツテモ其振興ガ公益公益トナルヤ如何ト云フ問題トナレバ倫理思想ト離ル可ラザルニ至ルノデアル、故ニ我輩ハ此等分類ニ依ラズシテ年代ヲ逐ヒ、古來重モナル學者ガ經濟上ノ消費ト云フコトニ關シ、如何ナル思想ヲ有シテ

居ツタカラ略述シテ極メテ簡單ニ其ノ學說發達ノ徑路ヲ探ツテ見ヨウト思フノデアル

東洋ニテモ西洋ニテモ太古ノ學者ハ皆財ヲ以テ德行ノ道具ト考ヘテ居ツタモノデアル、財ハ財其物ノ爲メニ貴マレタルニアラズ又其ノ享樂用ノ爲メニ重セラレタルモノニアラズ、尙之ヨリモ大ニ高尚ナル道德上ノ目的ヲ達スルノ手段トシテ尊重セラレタモノデアル、現ニ支那ニ於ケル聖賢ノ教ハ皆ソノ通りデアルガ、夫ノ希臘ノぶらとろん及ありすどろとれす等モ亦全ク同一ノ考ヲ有シテ居ツタモノデアツテ、此ノ點ハ太古思想一般ノ特色ト認ムベキモノデアル、故ニ此ノ時代ノ學者ハ主トシテ財ノ使用ニ重キヲ置キ、富者ニシテ其財ヲ散スルコト(消費)ヲ爲ササルモノハ社會ノ大罪人トシテ之ヲ排斥シテ居ツタ位デ、彼等ハ單ニ消費ノ方法如何ニノミ着眼シタモノデアル、乃チ太古ノ學說ハ道德上財ノ消費如何ノ問題ヨリ經濟學上ニ接觸シ來ツタモノデアツテ、消費ガ重要ノ主題デアツタコトハ我輩ノ辯說ヲ待ザル所デアル

歐洲文明ノ淵源ナル羅馬ハ其ノ事業ノ雄壯構大ナリシニ拘ハラズ、其ノ思想ハ大抵希臘ヨリ誘入シ來ツタモノデアツテ、殊ニ經濟學說トシテ見ルベキモノナド其ノ創意ニ出テタルモノ甚タ稀レニシテ、概チ希臘人ノ後塵ヲ拜スルニ過キナカツタモノデアル、故ニ羅馬ハ實際ニ於テハ常ニ掠奪經濟ニ從事シテ居ツタモノナレドモ、其ノ學說トシテハ矢張財ヲ以テ道德上ノ目的ヲ達スル手段トナシ、財其物ヲ尊重シタルニアラザルコトハ希臘ニ異ナラサルノデアル、降テ中世紀ニ及ビ基督教ノ教理專ラ人間ノ思想界ヲ支配シ、何事モ總テ教會法ヲ標準トシテ之ヲ裁斷スルコトトナリシカバ、其ノ時代ノ經濟ハ全然倫理ノ立場ヨリ之ヲ看察シ、隨テ財ノ消費ヲ重大視シタルコト

ハ寧ロ當然ノ結果デアツテ少シモ怪シムニ足ラナイノデアル、中世紀ノ學者ノ多クハ價值問題ニ付キテハ皆正當價值 *Justum Pretium* ノ理想ヲ抱キテ、而カモ之ヲ客觀的ニ看察シテ居ツタモノナレバ、此等ノ人々ノ頭腦ニハ勿論功用 *Utility* ノ觀念ハ起ナイ筈デアル、功用ノ觀念が起ラサレバ經濟的ニ消費ノ必要ヲ認ムルト云フコトハ到底出來ナカツタ筈デアル、然ルニ此ノ時代ノ倫理的消費説が其後漸次變遷シテ、純乎タル經濟的ノ色相ヲ現ハシ來ツタノハ、夫ノ「まあかんちりすむ」ノ發生ト同時デアツテ、其ノ先驅ヲナシタル重要ノ人ハ勿論云フ迄モナクとうます、まゐん *Thomas Mun* (一五七一—一六四一) デアル、まゐんは其ノ著 *England's Treasure* ニ於テ往々此ノ問題ニ接觸シ、外國品ノ消費ヲ減少スルト同時ニ自國ノ消費ヲ獎勵セザル可ラザルコトヲ論述シテ居ツテ、彼ハ眞ニ經濟的ノ意味ニ於ケル消費説ノ種子ヲ播キタル最初ノ一人デアルト云ハチバナラス

まゐんと同時ニ價值ニ關聯シテ功用説ヲ唱ヘタルぐろしうす *Grocius* (一五八三—一六四五) ほつぶす *Hobbes* (一五八八—一六七九) ぶへんごるふ *Pufendorf* (一六二三—一六九四) 等ノ人々ハ、其ノ思想ノ根本ニ於テ當然費消ノ研究ヲ必要トシタルコトハ明カデアル、蓋シ價值ノ功用説ハ人間ノ須要 *Human want* ニ基キタルモノデアツテ、人間ノ須要ニ關スル學説ハ即チ消費問題ニ外ナラナイノデアル、故ニぐろしうす等ノ功用説ガ消費ヲ根本思想ト爲ササル可ラザルコトハ云フ迄モナキコトデアル、然レトモ彼等ハ明ニ消費ヲ主題トシテ論シタルニアラズ、唯々其ノ所説ノ中ニ種子ヲ胚胎シタルニ過キザレドモ茲ニ此ノ時代ノ學者中消費説ニ付キ殊ニ記載ニ値ヒスル人ハにこ

- 1) まあかんちりすむハ多ク消費ノ減少ヲ經濟上ノ不眞ノ兆候トセリ
- 2) Chap III IV

らす・ばあばん Nicholas Barbon (一六四〇—一六九八) デアル、ばあばんハ現ニ明カニ消費ノ語ヲ使用シツツ其ノ重要ヲ認メタルモノデアツテ、彼ハ其ノ著 A Discourse of trade (一六九〇) ニ於テ「アラユル商品ノ價值ハ其ノ實用ヨリ生ス、商品ノ實用ハ人間ノ須要ヲ充實スルニアリ、……浪費ハ人間ノ惡德デアルモ商業ニハ活潑ナル動機ヲ與フルモノデアル……客齎ハ人間ニモ商業ニモ共ニ有害デアル、客齎者ハ自ラ之ニ依テ富ムベシト信スルモ、ソレハ却ツテ貧ニ就クノ途デアル、何トナレバ彼等ハ人間ノ須要ヲ充スカ爲メニ造ラレタル商品ヲ消費セザルガ故ニ、所謂ル賣殘リノ寢シ品ナルモノガ澤山ニ出來シテ、一般ニ商品ノ價格ヲ下落セシムルニ至ルモノデアル、商品ガ下落スレバ客齎者ノ資産モ亦總テ其ノ價值ヲ減少スベケレバナリ、……故ニ彼等ガ商品ヲ消費セマジト云フ陰謀ハ商業界ノ爲メニハ外國ト戰爭スルヨリモ一層危險ナルモノデアル」<sup>1)</sup>ト云ツテ、消費ノ重大ナル效果ヲ述ヘテ居ルノデアル、是レガ我輩ノ知ツテ居ル所デハまんニ次キ經濟的方面ヨリ明確ニ消費ノ必要ヲ説キタル重モナル人デアル、ばあばんノ所論ハ往々矯激ニ失スルノ失アリ、又或ハ嚴正ノ意味ニ於ケル學說ト云ハンヨリハ、寧ロ貿易政策トシテ述べタル様ニ思ハル所アルモ、兎ニ角 Discourse ノ全篇消費ヲ主眼トシテ論シタル觀アルハ、我々ノ特ニ着眼ヲ要スル所デアル

ばあばんノ後ニ極力消費ノ利益ヲ説キタルモノハ、例ノまんデグゆる Mandeville (一六七〇—一七三二) デアル、彼ノ「蜂物語」<sup>2)</sup>ハ其ノ主意はばあばんノ論文ト稍々異ナル所アレドモ、彼ガ經濟上消費ニ重キヲ置キタルコトハ、其ノ物語ノ一ツノ特色トシテ見ルベキ點デアル、彼レハ「消費ノ側ヨリ之

1) Discourse P. 13.

2) Ibid P. 63.

3) Fable of the Bee. (1729)

ヲ看察スレバ怠惰者ト雖モ社會ノ爲メニ大益ヲナシツツアル者ナリ」ト云ヒ、又「我欲ト浪費ハ共ニ社會ノ必要物デアル」ト斷言シ、吝嗇及満足ハ事業ヲ萎靡不振ニ陥ラシムル大罪惡ト考ヘタモノデアツテ、彼レハ盜賊デスラ吝嗇者ノ金ヲ盜ンデ消費スル場合ニハ社會ノ利益デアルナド極言シテ居ル位デアル、而シテ彼ノ言辭ハ頗ブル粗暴露骨ニシテ人間ノ惡感ヲ惹起スルニ足ルべく、又前ニ述ヘタル太古ノ倫理思想ニ基キタル消費論ナドトハ其ノ主旨固ヨリ正反對ナリト雖モ、彼カ人間ノ慾望ヲ經濟的活動ノ中心トナシ、之ヲ以テ其ノ意見ノ主眼トナシタルハ、我々ノ最モ注目セザル可ラサル要點デアル、彼ハ曰ク人間ハ其ノ慾望ヲ引起スルニアラサレバ自ラ活動スルモノニアラズ欲望ガ不動ノ狀態ニ沈靜シテ更ラニ之ヲ攪醒スルコトナクンバ人間ノ優秀性ト其ノ活動力トハ、永久ニ實現スルノ機會ナカルベシ云々ト、此ノ言固ヨリ至當ニシテ、何人モ之ニ反對ヲ表スルモノナカルベシト思ハルル、但タ彼ガ所論ハ其ノ物語ノ標題ニ示スカ如ク、個人ノ惡德Private Viceハ社會ノ公益Public Benefitsデアルト云フノデアツテ、如何ニモ有德家ノ口ニスベキコトニアラザルガ如クナレトモ、其ノ主意ハ必スシモ皆誤謬ノミニアラス、現ニあだむ・すみすが「まんでぐる」云フ所ニハ一部ノ真理アリ、其ノ學說ガ世界ノ大反對ヲ招キ、一時非常ノ物議ヲ來シタルハ、全ク其ノ說ノ中ニ一部ノ真理ヲ含有スルガ爲メナリト評セルハ決シテ過言ニアラサルベシ、まんでぐるハ、消費ト云フ語ヲ一ツノ學語トシテ使用スル程ニハ至ラザリシト雖トモ、往々Consumption 又ハ Consume ノ語ヲ使用シタルノミナラズ、又多クノ場合ニ於テハ情欲Appetite 又ハ望Desire 等ノ語ヲ使用シテ、經濟學上ニ所謂需用Demand ヲ引起スノ必要ヲ説キ

1) Ibid. 5th Ed., P.82.

2) Ibid. P. 283.

3) Ibid. P. 83.

4) Ibid. P. 199.

5) Moral Sentiment Pt. VII. Sect. II.

6) Voltaire が蜂物語ヲ讀ンテ其ノ持論ヲ變ジ俄ニ激烈ナル消費論者トナリタルコトハラダレハ其ノ奢侈論ニアリ

タルハ、ばあばんと其ノ步調ヲ一ニスルモノデアツテ、此ノ兩人ノ説ハ其後ニ現ハレタルろうだあでゐる Landeole 及ばんふる<sup>1)</sup> Panfield 等ノ思想ニ影響シタルコト甚大ナルベシト信ス次キハ英國人かんちろん Cantillon (生不明歿一七三四?) デアル、彼ハ曾テじねばんすが近世經濟學者ノ開祖デアルト評シタ位ノ大家デアツテ「ふゐしをくらつと」ノ學說上ニハ多大ノ勢力アツタ人デアアル、じねばんすノ評ハまあしやるナドノ與セザル所ニシテ、<sup>1)</sup>我輩モ亦ソレハ過當ノ言ナルベシト信スレドモかんちろんガ確カニじねばんす一派ノ學說ヲ其ノ大體ニ於テ前言シタル一人デアアルコトハ疑ヲ容レザルコトデアツテ、殊ニ消費ヲ功用ト結付ケテ詳カニ之ヲ解説シタルハ、學說史上ニ於ケル彼ノ大功績デアアル、彼ハ其ノ著商業論ニ於テハ交換價值カ實價ニ對シテ多少ノ差異ヲ免カレサルハ消費ノ狀態ノ然ラシムル所ナリトシテ、交換價值ノ評量ニハ、消費ノ研究ノ必要ヲ述ヘ「市場ニ於テ日々常ニ交換價值ノ變動ヲ免カレザルハ、食料其他商品ノ生産額ヲシテ、其ノ消費ニ對スル鈎衡ヲ保タシムルコト能ハサルニ歸因スルノデアアル、故ニ經濟的調節ノ完全ニ行ハルル社會ニ於テハ、此等ノ食料其他商品ノ消費ハ總テ統一確定シテ變化スルコトナク、隨テ其交換價值ハ實價ニ對シテ多大ノ相違アルコトナシト云ヒ、價值論ノ上ヨリ消費ノ問題ニ接觸シテ、其ノ研究ノ重要ナルコトヲ認メタノデアツテ、其ノ說寔ニ是ナリト雖モ、彼ハ此ノ意見ヲ唱ヘツ、結局充分ニ消費ト功用トノ關係ニ論及スルコトナク、直ニ勞力說ニ進ンテ價值ノ要素ハ勞力ニアリト云フノ意見ニ歸着シタルガ故ニ、遂ニ消費ノ說ヲ徹底スルコト能ハサルト同時ニ、價值論ノ正鵠ヲ失フニ至ツタノデアアル、ひつぐす Higgs ガかんちろんノ意見ハ精確ニ其ノ時代ノ事

1) Principles 2d ed. P. 53. Note.

2) Essai sur le commerce. Higgs ハ本書ハ一七三〇又ハ一七三四年ノ著作ナルベシト云ヘリ

3) Essai, PP 38-39.



實ニ適應セリト評シタルハ、當時佛國ニ於ケル奢侈ノ風俗ガ一般物價ニ及ホシタル事情ヲ視テ、斯クノ如キ言ヲナシタルモノナルヤ知ラザレドモ、兎ニ角かんちろんノ消費論ハ組織的ノ纏ツタル思想ヲ表シタルモノニアラザルガ如シ、學界ノ傳說ニ依レバ、此等ノ問題ニ關シテ彼ノ意見ヲ窺知スルニ重要ノ資料デアツタト推定サルル、「商業論補遺」ノ草稿ナルモノ、不幸ニシテ何處ニカ紛失シテ、其ノ内容ノ大要スラ今日ニ傳ハザルヲ以テ、我々ハ國ヨリ彼ノ說ノ真相ヲ究ムルコト能ハズト雖トモ、其ノ商業論ニ現ハレタルダケノ意見ニ付テ之ヲ看察スレバ、彼カ消費ニ關スル說ハ前輩ノ說ニ比シテ餘リ進歩シタルモノト云フ可ラズ、唯々價值ノ功用說ニ離ル可ラザル關係アルコトヲ知ラシメタルニ過キザルノデアル

「ふるしをくらつと」ノ首領けねる Quesnay (一六九四—一七七四)ハ其ノ學說ニ於テハかんちろんノ說ヲ採用スル所少ナシトナサズ、現ニ夫ノ有名ナル純生産物 *Produit net* ノ說ノ如キモ大體かんちろんノ思想ニ基キタルモノデアツテ、彼カ經濟學說ハ其ノ根本ニ於テかんちろんト大同小異デアルト云ツテ差支ヘナイノデアル、然レトモソレハ且ラク措キ、彼ガ學派ノ經典ヲ以テ目セラルル有名ナル *Tableau Economique* ハ元來生産的消費ト不生産的消費ノ對照表ニシテ此ノ二者ノ利害ヲ比較研究シタルモノニ外ナラザレバけねるガ消費ノ事ニ着目シタルコト勿論辯スルマデモナシト雖彼ハ之ヲ以テ單ニ所謂不生産的ノ消費ノ多大ナルヲ不可ナリトシタノデアツテ、未タ消費ノ經濟上ニ於ケル眞ノ效果ヲ認ムルニ至ラサリシハ甚ダ遺憾トスル所デアル、加之ナラズ彼ガ「費用(支出)ノ最大減少ヲ以テ享樂ノ最大増加ヲ求ムルノガ經濟ノ完成 *Perfection* デアル」ト云ヘ

1) *Economic journal* Vol. 1. P. 291.

2) J. Bonar's *Philosophy and Economics* 初版一三七頁ニ引證セリ

ルカ如キハ、其ノ語調全クじねばんす及奥國學派ニ酷似シテ居ツテ此ノ思想ヨリ推定スレバ彼ハ進ンデ消費問題ノ奥闡ニ入ラザル可ラザル筈ナレトモ惜ヒコトニハけねヲ始メ純乎タル「ふゐしをくらつと」ノ學說ハ皆生産ノ經濟學ニシテ、消費論ニハ餘リ深ク注意シナカッタ様ニ思ハルノデアル、而シテ彼ノ學派ガ價值論ニ關聯シテノ消費問題ハ如何デアルカト云ヘバ此方面ヨリ此ノ問題ニ接觸シタ者ハ比較的甚ダ僅少デアッタノデアル、彼等ノ意見デハ消費ハ單ニ生産費ヲ實現スルダケノモノデアツテ、價值ノ終極ノ要素ヲ詮ジ詰メレバ生産費デアルト云フニ過キザルノデアル、コレハ價值ヲ客觀的ニ看察シタル結果デアツテ、現ニけねゑハ「物ノ價格ハ賣買双方ノ利害ニ從屬スルモノニアラズ、賣人及買人ガ各自ノ便宜ニ依ツテ定ルモノニアラズ」ト放言シテ價值ナルモノハ賣買取引ノ以前ニ既ニ極ツテ居ルモノノ如ク思ツテ居ッタモノナレバ「ふゐしをくらつと」ノ腦裏ニ價值論ノ要件トシテ消費說ノ發達ヲ見ザリシハ當然ノコトデアル佛國ノ學者ニテかんちろんト同時ニ價值論ニ關聯シテ消費ノ必要ヲ認メタル他ノ一人ハこんじらつと Condillac (一七一四—一七八〇) デアル、彼ハ一七七六年ニ出版シタル *Le Commerce et le Gouvernement* ニ於テハ先ツ價值論ヲ以テ經濟學ノ根本トナサザル可ラサルコトヲ斷定シ、其ノ所謂價值ナルモノハ功用ニ基クモノナルコトヲ説明シテ、專ラ主觀的ニ價值ノ性質ヲ述ヘタルモノデアル、彼ノ意見ニテハ價值ハ財其物ニ存スル屬性ニアラス、財ノ利用ニ對スル吾人ノ感覺ヲ現ハシタルモノデアツテ、而カモ其ノ利用ト云フコトハ吾人ノ須要 *Want* ニ關聯シテ云ヘル言葉デアル、故ニ價值ハ吾人ノ須要ノ伸縮ニ從ツテ増減スルモノナリト云フノ意見デアツテ、是レモ亦

1) Sewall's Theory of Value beofre Adam Smith チ見ルベシ

消費ノ側ヨリ看察シタル重要ノ學說ナリトス。

此ノ時代ニ於テ消費ニ關スル學說トシテ見遁ス可ラサルモノハ、伊太利ノ學者ガリヤニ Galiani (一七二八—一七八七)ノ說デアル、ガリヤニハ佛國ノ學者ト同シク價值論ヨリ進ンダノデアツテ彼ノ貨幣論ハ此ノ問題ヲ明ニ論述シタル有名ノ著述デアル、彼ハ曰ク價值ハ單ニ物ノ多少ニ依ツテノミ定マルモノニアラズ、物ノ價值ト分量トハ相互的ノ關係デアル、故ニ價值ハ消費ニ屬スルト同時ニ消費ハ價值ニ從ツテ變スルノデアル、凶歲ニ穀物ノ價格ガ騰貴スレバ消費ハ之ト與ニ減少シ、豐年ニ下落スレバ消費ハ之ニ從テ増進ス、消費ノ増進ハヤカテ復タ價格ノ騰貴ヲ來サザルヲ得ザルガ故價格ハ常ニ其ノ平準ヲ求ムルノ傾向ヲ有ス云々ト云フノデアツテ其ノ說固ヨリ完全ナラズト雖亦消費ノ效果ヲ重大視シタル有力ノ意見デアルコトハ疑ヒナイノデアル

當時直接ニ消費問題ヲ提出シテ其ノ必要ヲ說キタルモノニアラザレドモ、人間ノ須要 Wantヲ經濟的活動ノ要素トナシ、專ラ此ノ方面ニ着眼シタル他ノ一人ハたつかあ Josiah Tucker (一七一三—一七九九)デアツテ、斯人ノ商業論<sup>1)</sup>ノ根本思想ハ凡テ四ツデアル、第一ハ人間ノ須要、第二ハ利己心、第三ハ倫理學ト經濟學トノ關係、第四ハ國家ノ隆盛ニ關スル意見デアツテ彼ハ此等ノ事ニ付キ廣キ意味ニ於ケル商業論ヲ試ミタルモノデアル、彼カ所論ニ依レバ「經濟學ノ目的ハ人間デア  
ル商業界ノ現象ハ皆其ノ説明ヲ人間ノ性質ニ求メザル可ラザルノデアル、而シテ第一ニ人間ニハ缺ク可ラサル須要ナルモノアリ、此等ノ須要ノ刺撃ニ依リ、進ンテ之ヲ満足スルコトヲ求ムルガ經濟行爲ノ真相デアル、……人間ハ他ノ動物ト共通ニ有スル動物のノ須要ト、其ノ社交的動物トシテ人間ニ特有セル須要トノ二ツノモノヲ有ス、即チ前者ハ之ヲ自然ノ須要 Natural Wants ト云ヒ

1) Trattato Della moneta  
2) Sewall P. 95.  
3) Elements of Commerce (1755)

後者ハ之ヲ人爲ノ須要 Artificial Wants ト云フ……商業ノ維持擴張ハ人爲ノ須要ノ増加ヨリ結果スルニ外ナラズ」云々ト論シタルカ如キハ明カニ消費カ經濟的事業ノ原動力タルコトヲ認メタルノデアアル、然レトモたつかあノ意見ハ此ノ人爲ノ須要ハ其ノ效果皆必ス是ナリトスルニアラズ、放肆ニ流レ邪惡ニ陷ルトキハ、却テ大ニ商業ノ發達ヲ沮得スルノミナラズ、一般社會ノ公利公益ヲ害スルモノト信ジタルノデアツテ、此ノ點ニ於テハ夫ノまんでぐるノ説ニハ正反對ヲ表シタルデアアル、彼ハ曰ク「蜂物語」ノ著者ガ惡德ハ公益デアアルト云ヘルノ言ハ大ナル誤謬デアアル、國家ヲシテ隆盛ナラシムルハ唯々一ノ德行ノミデアアル、一切總テノ惡德ハ直接若クハ間接ニ商業上ニ害毒ヲ及ボスモノデアアル云々ト、彼ノまんでぐるノ僻見ヲ取ラサルコト斯クノ如シト雖トモ、所謂人爲ノ須要ヲ以テ經濟發達ノ要素トナシタルハ、事實ニ於テ消費ガ斯學研究ノ重大目的タルコトヲ認メタルモノデアツテ、其ノ論旨ハまんでぐるノ聊カモ異ナル所ナキガ如シ之ヲ要スルニあだむ、すみす以前ニ於ケル消費ノ學說ハ大略斯クノ如キ徑路ヲ辿リ來ツタモノデアツテ是レヨリすみすノ起ルト同時ニ、此ノ方面ノ研究ハ更ラニ大ニ發達スベキ筈ナルニ拘ハラズ、すみす以來數十年ノ後ニ彼ノ數學派ノ現ハルルマデハ、此ノ消費問題ハ殆ント閑却セラレ、偶々二三ノ卓見家アツテ斯學ノ研究上此ノ科目ニ着眼スルノ必要ヲ説キタルモノアルモ、殆ンド之ヲ省ミル者ナカッタノハ甚タ奇怪ノ現象ナラズヤ、然レトモ消費ニ關スル眞ノ學說ハ一方ニ於テ社會的方面ノ廣キ問題ニ屬スルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ人間ノ心理學的研究ヲ要スル複雑ノ問題デアアル、經濟學ガ專ラ財ノ生産ノ學問ト見做サレツツアツタ時代ニ於テ其ノ學說ノ思ヒノ外ニ發達セザリシハ又止ムヲ得サル次第デアアル

1) Clark's Josiah Tucker ニ引證スル所ニ據ル 2) Ibid.  
 3) Petty ハ愛蘭人ノ收長ハ經濟學品ノ消費獎勵スルニアルコトヲ痛論シタルモノ一般  
 消費論ニハ説及セズ Locke ハ價值論ニ於テ勞力ヲ述ブルト以テ國家不  
 唱ヘ居ルモ消費ノ問題ニ接觸シ居ラズ又 Hume ハ消費ノ缺乏ナリ  
 一大原因トナセドモ未ダ其ノ眞ノ效果ヲ論究スルニ至